生田の理
英寿画
十八編上
作題豊国画
郡の俤
柳亭作
国貞画
十八編下

生国の理
笑寿登梓
仆題曲亭馬琴
十八編上

能詰

とも飛鳥

と離れ去る面に

かゝる女と入て往ふ心と

動せ空可愛と唯一句の貴聲と

聞なハ遺憾ゝ假令日と招く

大相國車に衝立時平公でも演戯ハ

演戯で頭も低ぎつけ焼刃ハ須臾

砕ず懐刀ハ即席の用ふ達ぬと

いのにせん是悉實化物あゝ怪ぎ

精神も亦至ぐゝ畢竟鏡影の如ー

さるバ源氏の作者と称揚て『あゝ此作主

の男ゆて大臣に家ゆゞふ生ゝて大政と

執行ゝ世しゞ世ゝ上下世恨と

のこゝゝあゝゝゝゝゝゝと』と離屋先生ハ

少女巻の抄註ふ考るされつゞ是とゝ

繪草帝ふ作る吾輩ゆさそゝりの徳ハ

ゝくとも世ゝての支ふ児女ふ飢寒あゝめゞ

人並の世と経ゝゞの才覚いあゝゞ紀ふ頭のあ

ゞゝぬ布世屋ふ屈りのつゝ変らぬ裏店住

居瑠璃色浅で紫と化ー小鉢の牽午子の

露ふ筆と沾ゝのと是でゝ倩紫の作者ゝ

と夷則初の四日愚癡と汗とゝゞして記ゝ

種彦著

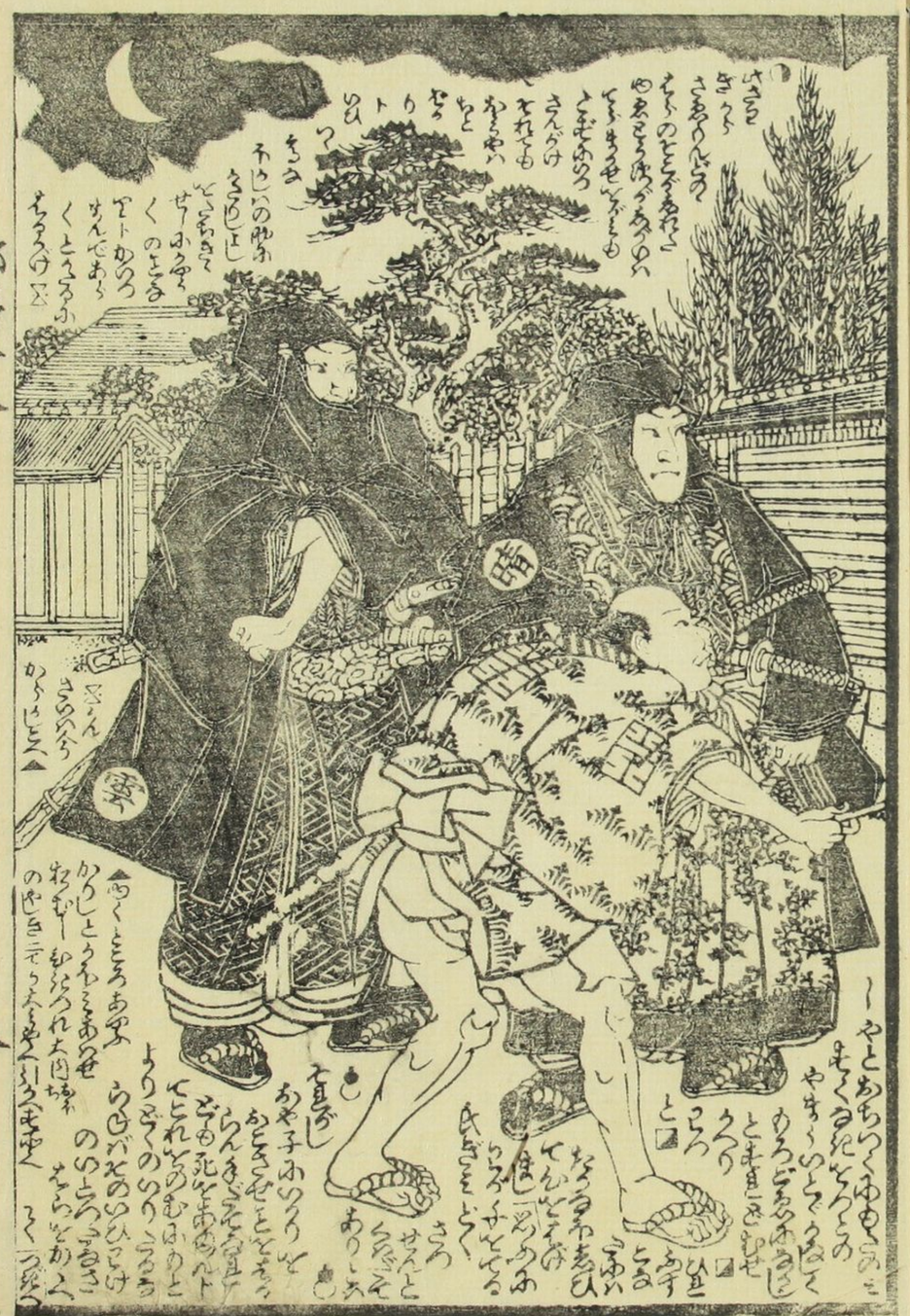
六條准后御次郎君
香折之丞實ハ赤松柏之助
の亂也
豊国画

三津世の前
雜髪して
寺内南の御殿ハ
御法号て
三乘禪尼とやゝ

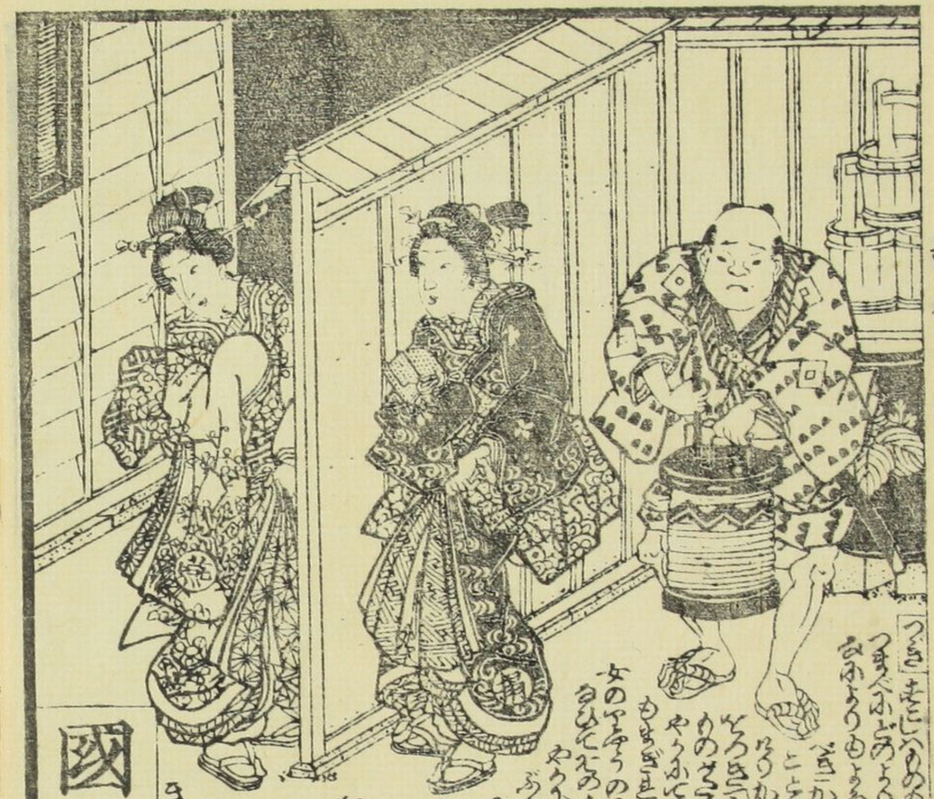
雲井亟氏仲一條の
邸ゟ落葉を訪ふ
豊国

梅
柏

高
玉
海



○凡熱脂の毋最上ニ至りのそ事



國貞画 柳亭著

滑稽富士詣

毎編二冊 中本十冊 御表紙彩色摺 御表紙題書文試作

中大尾 一 孟齋芳虎画

富士山開闢の御縁年は當正月女人の登山を許されたるとて滑稽の為に同行の老若男女上農工商藝人遊客甲州街道より登りの下山分帰路東海道を便す途中箱根七箇の温泉場巡り富士山詣横濱見物巻尾の廓に泊落ぶらぶら當時の流行を鑒ち尽くす巻中毎編雅俗と混じ理りを詠ずる詩歌俳諧唄浄瑠璃端唄等の高名通字を連ねる作者の丹精一回々々に胸色筆談腹とかくせるを迄とこの實地みるが如く上字文の編毎に見る東都雷名の通客等ケ狂文の筆と輝ひし錦心繡口全本一編二巻八幾出板仕の間に求ぬる俗事希ゆ

地本繪草紙問屋 照降町 笑壽屋庄七梓

都の俤

柳亭作

国貞画

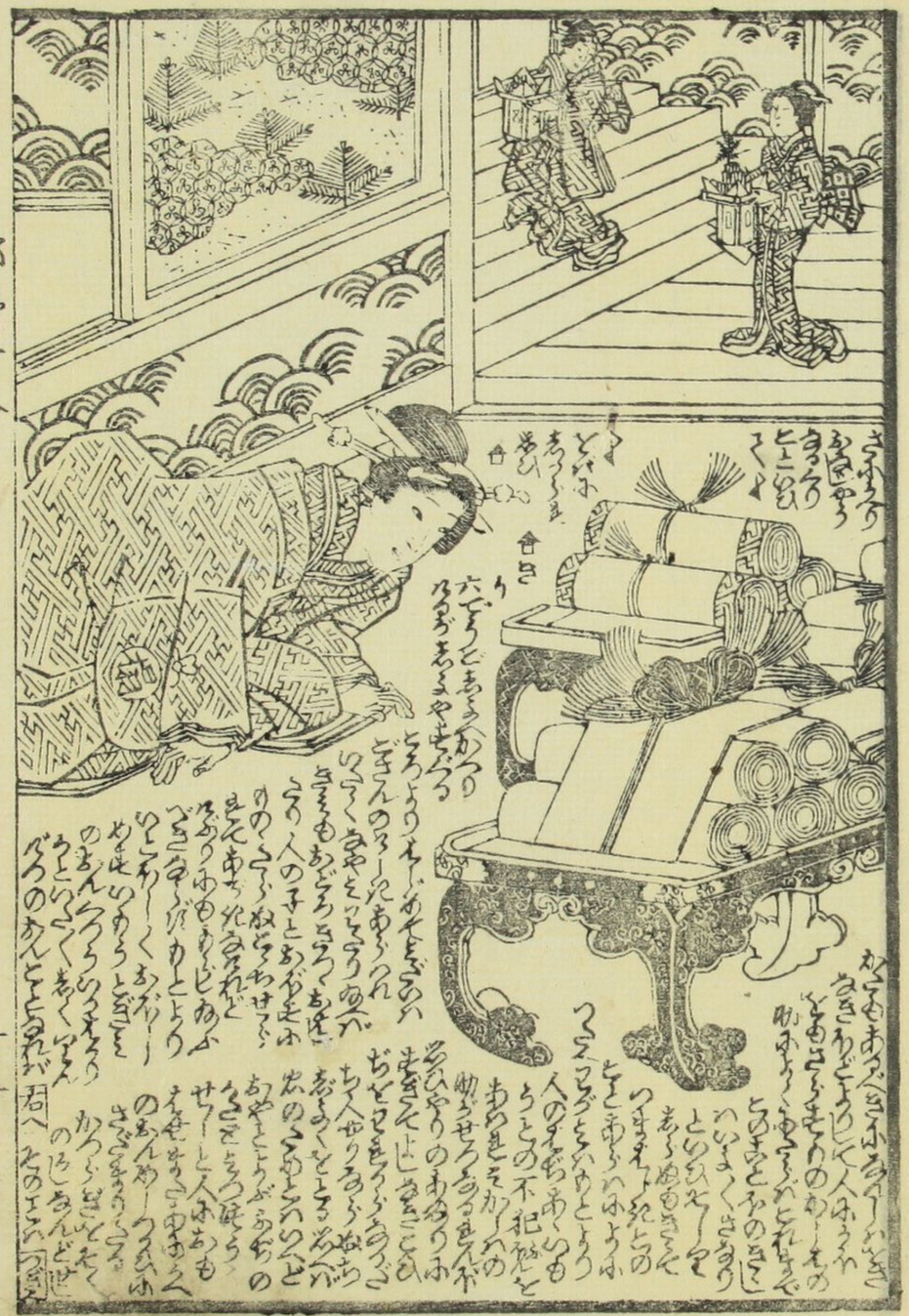
十八編下

出雲紙
板母の井
十八篇
下帙

二世柳亭化
柳塘樓画

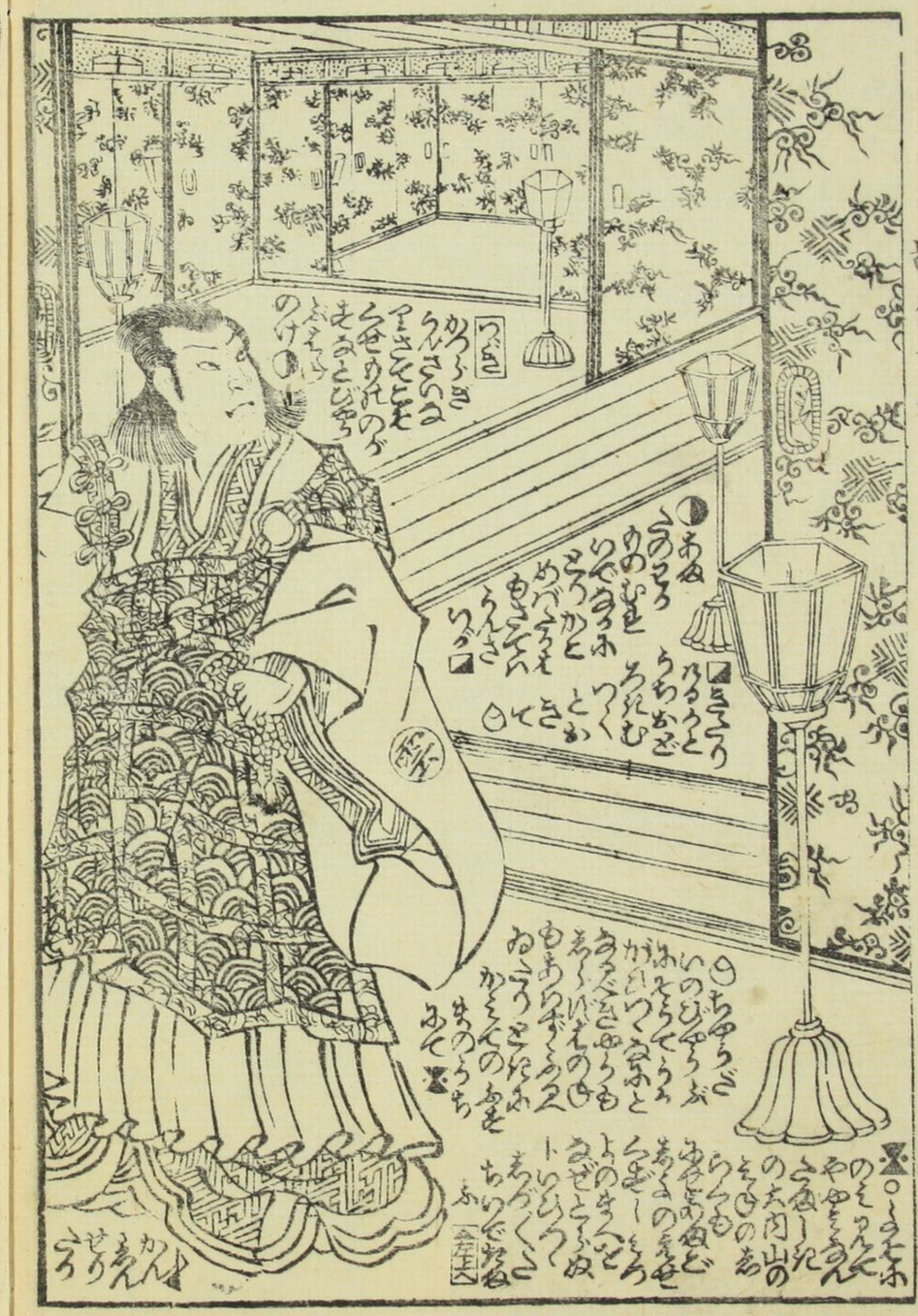
東京大学

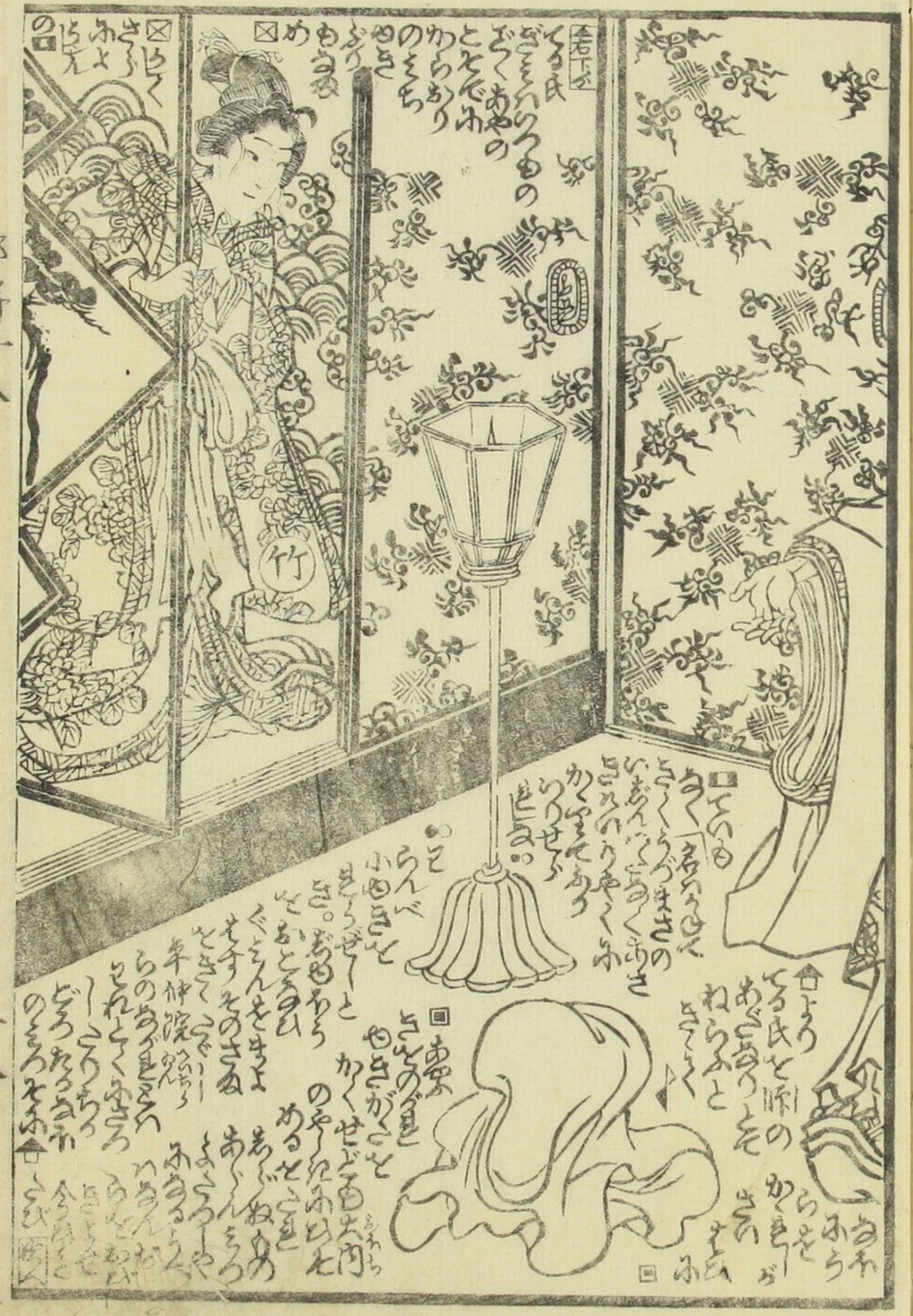
三



輝氏君
むかしの
ちんとともあび
いぐーくあげ
図下

図下
こゑふ文ホ
つたとあたも
むしのあも
くげとろーー
いぐーアをもさ
むしとあくふ





種彦著

國貞画

傭書交来

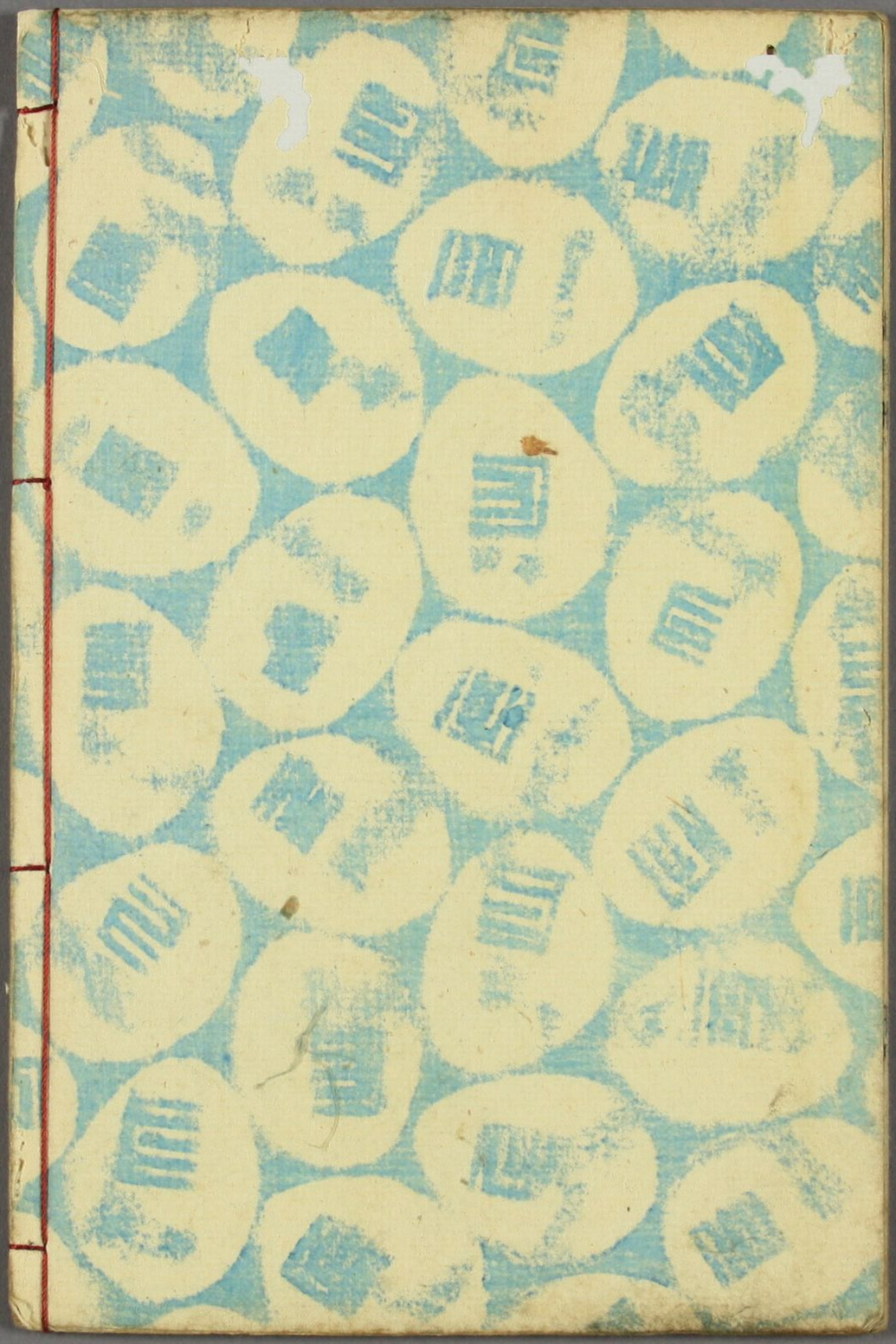
稲妻形
怪鼠標
子七編

樂亭西馬稿
曾文作
國明画

其由縁鄙俤 二十編 二十一編 二十二編 種彦作 國貞画

十勇士尼子の礎 五編 曾文作 六編 芳虎画

雨夜鐘四谷雑談 九編 曾文作 十編 芳虎画

比奈乃都大内譚 三編 種彦作 四編 芳虎画

地本問屋 江戸てりふり町 壱ひすや 庄七